



笠間市 地域包括支援センター

KASAMA

包括ケア会議だより

Vol.6
R3.11.22

朝晩の冷え込みが強まってきたが、皆様風邪などひいていませんか？引き続きコロナ対策・インフルエンザ対策に心がけていきましょう。

さて、11月の包括ケア会議は、独居で認知症の方の支援について、警察署、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所の皆さんに参加いただき検討しました。

★独居で認知症の方の支援について検討

Aさんは昨年から、何度も金融機関で通帳の再発行を繰り返し、最近になり泥棒が入るという訴えが増えてきました。通院はしていますが一人暮らしのため服薬管理ができず、親族やサービス事業所の職員にも怒りをぶつけてしまい、精神的不安定さが目立ちます。訴えが頻回なのでケアマネジャー、金融機関や警察も家族に対応を相談しますが、遠くに住むため現状を把握することが難しく、サービス利用の必要性を感じていませんでした。

そこで、家族に今の困っている状況を分かってもらえるよう、それぞれの関係者がトラブルが起こる度に家族に連絡し、状況を伝えてきました。そんな中、家族と本人が一緒に過ごした時に騒動があり、家族がケガを負ってしまいまし

た。家族がやっと現状を把握できた出来事でした。その後、家族は専門的な医療機関の受診やサービスの必要性を認識することができるようになりました。

一人暮らしの場合、同居をしていない家族は本人の生活を完全に把握できません。近所に住む方や地域の関係者が困っていても、キーパーソンが動かない限り前に進むことができません。しかし、その逆で受診やサービスの必要性を認識してもらえば、関係機関も連携して支援につなげることができます。

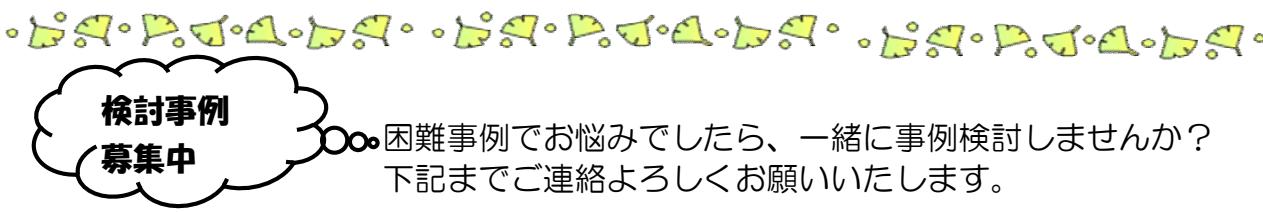
早くスムーズに家族が現状を把握し、関係者と協力し合えれば、トラブルや騒動の回数も減らせます。関係者が密に情報交換・情報共有し、家族に訴え続けたことで解決につながったケースでした。

＊＊10月の検討事例の経過報告＊＊

★「退院時期となっているが、新たな住居が決まらない精神疾患の方ケース」

病院側で、家族に集まってもらい話し合いがもたれた。ご本人にとって自宅退院と施設入所、

どちらがご本人の生活の場としてよいか病院と家族で検討している状況である。



笠間市地域包括支援センター TEL 0296-78-5871